

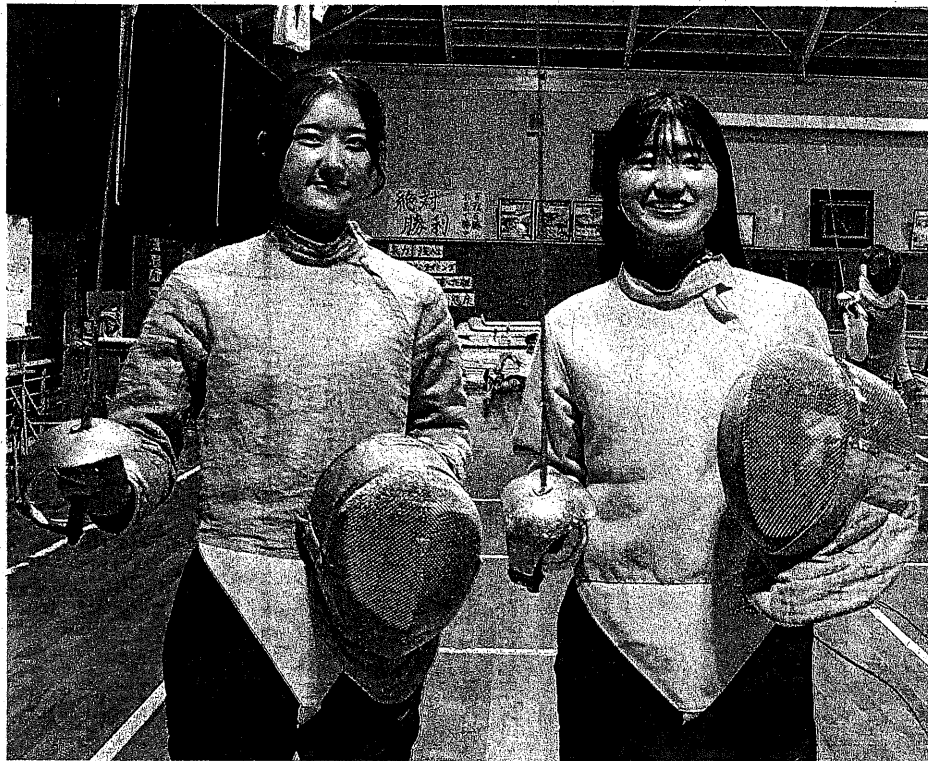
フェンシング成年女子

33年ぶり県勢出場 国スポ8強へ意欲

佐賀県で開催される国民スポーツ大会に、フェンシング成年女子が県勢として33年ぶりに出場する。3人のメンバーは最年長でも31歳。前回の出場時には生まれていなかった。チャレンジャーの立場でベスト8進出を目指す。
(和泉萌花)



木村選手



「今年は絶対に近畿プロックを突破したいと思っただ」。大津市の石山高校教員で、監督を兼任する矢幡侑菜選手(26)が語る。背景にあったのは、昨年の近畿予選での悔しい敗戦。フェンシングは3人が出場し、2人の勝利でチームの勝敗が決まる。昨年は4位で本選出場を逃した。「本当に悔しくて。だからこそ今年はいろんな人が応援してくれた」

昨年に続きメンバー入りした同志社大3年の松本璃音選手(21)のほか、大津市出身で、元日本代表の木村穂乃選手(31)も滋賀選手団に加わり、今年にかける思いは強かった。8月の予選では2位で国スポ出場を決めた。昨年の雪辱を果たし、矢幡選手は「みんな大喜びでした」と笑顔で振り返った。

33年という歳月を経て出場をかなえた理由には、チームとしてのまとまりがあった。教員の矢幡選手、学生の松本選手、東京拠点の木村選手。所属も練習場所も異なる3人。全員がそろっての練習は難しく、合同練習といっても2人が集まるのがやっととい

う状況だ。でも、試合になると最年長で経験豊富な木村選手を中心に一致団結。最年少の松本選手は「頼りがいのある先輩たち。のびのびと、でも緊張感を持って試合ができる」と語る。

充実したメンバーがそろったことも大きい。県内にジュニアチームはあるものの中学に部活動はなく、高校も3校のみ。各学年で大学でも続けるのは3人ほど。社会人で続ける選手はもっと少なくなる。そんな中、大分県出身で岐阜県の大学を卒業した矢幡選手は「フェンシングの競技人口がまだ少ないところで体育教員をやりたい」と滋賀にやってきた。木村選手も「地元への滋賀が大好き」とメンバー入り。県のプロジェクト「滋賀レイキッズ」でフェンシングと出合った松本選手も力をつけた。

目標の8強進出には、3チームからなるリーグ戦を2回突破が条件。「びびらずに勝負がしたい」と力を込める矢幡選手。松本選手も「滋賀で育ち、フェンシングを始めたのも滋賀の皆さんのおかげ。来年の国スポに向けて弾みをつけたい」と話し、木村選手も「一勝でも多く勝って、来年の国スポの活力にしたい」と意気込む。

33年ぶりの出場を決め、8強進出に向けて意気込む矢幡選手(左)と松本選手(右) 草津市の玉川高で